⑧龍石（たついし）海岸～50万年前・雲仙火山のはじまり～

:なし :不可

③の地層（約30万年前）
主に土石流の堆積物。
大きく成長した雲仙火山の裾野の一部（中期雲仙火山の噴出物）。

②の地層（50万年前）
土石流もしくは泥流の堆積物。
雲仙火山の最初の噴火で噴出した火砕物の再堆積層（古期雲仙火山の噴出物）

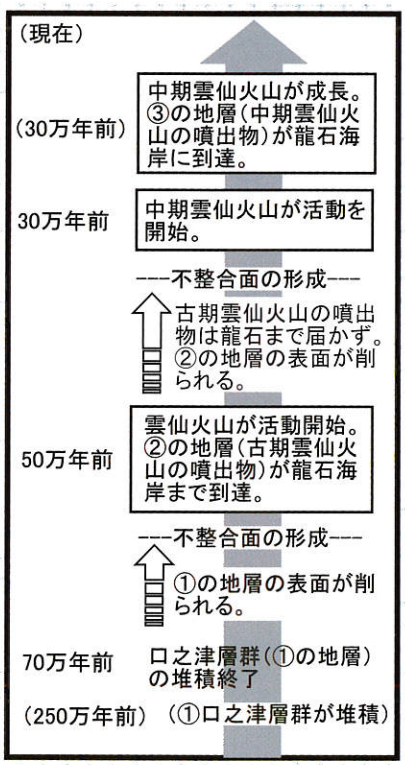
①の地層（250万～70万年前）
浅い海や陸上でたまった地層（口之津層群）

海岸近くで観察できる雲仙火山のはじまりの地層。海の中にたまった地層（①の層）の上に、雲仙火山の最初の噴出物（②の層）が堆積しています。さらにその上には、岩塊をたくさん含んだ、土石流の地層（③の層）が何枚も重なっています。黄色の線は、一度たまった地層がけずられてできた「不整合面」で、雲仙火山の最初のなり立ちをひもとく上で重要な情報を与えてくれます。

雲仙火山ができる前の島原半島地域には、浅い海の中に浮かぶ火山島がありました。その頃、現在の龍石（たついし）海岸付近は、砂や泥がたまる浅い海でした。この時代に作られた地層は、「口之津（くちのつ）層群」と呼ばれています（写真の①の地層）。口之津層群のうち、陸化した所は削られ、表面にでこぼこ（不整合面）ができました。

雲仙火山の最初の活動は、今の島原半島西部の小浜付近ではじまりました。最初の噴火は、マグマ全体が泡立つような激しい噴火で、②の地層を龍石海岸までもたらしました。その後も火山活動は継続しましたが、小浜から遠く離れている龍石海岸には噴出物がなかなか達しませんでした。山体が成長するまでの間、龍石海岸にたまった②の地層は削られ、再び表面にでこぼこ（不整合面）ができました。その後、成長を続けた雲仙火山の裾野の一部が再び龍石海岸まで達し、③の地層が堆積しました。

①の地層の堆積が終了したのは今から約70万年前。雲仙火山が活動を開始したのは50万年前。その後、成長した雲仙火山の地層が、再び龍石海岸に達したのは約30万年前のことです。この崖（露頭）からは、そんな40万年間にわたる雲仙火山の最初の姿が、地層に記録されています。



龍石海岸における地層の形成過程。露頭で観察される2枚の不整合面の存在から、地層の浸食や、その後の山体の成長を推定することができます。

◎お問い合わせ
島原市産業振興部　観光・ジオパークグループ
〒855-0879　長崎県島原市平成町1-1（雲仙岳災害記念館内）
geopark@city.shimabara.lg.jp　TEL 0957-65-5540 FAX 0957-65-5542
島原半島ジオパーク　検索